

研究・調査報告書

報告書番号	担当
298	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Risk factors for alcohol use, frequent use, and binge drinking among young men who have sex with men. 若年同性愛男性における飲酒、常用飲酒、多量飲酒の危険因子について	
執筆者	
Wong CF, Kipke MD, Weiss G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addict Behav. 2008 Aug;33(8):1012-20. Epub 2008 Apr 7	
キーワード	
危険因子、飲酒、常用飲酒、多量飲酒、男性、同性愛	
要 旨	
<p>目的： 若年同性愛男性における飲酒率および飲酒様式を検討し、飲酒様式と心理社会的要因との関連を検討する。</p> <p>方法： 米国カリフォルニア州のロサンゼルスにおいて 18 歳から 24 歳の若年同性愛男性 526 人を対象に過去 30 日間の飲酒頻度および飲酒量や心理社会的要因を聴取した。飲酒状況は非飲酒者および少量飲酒者、常用飲酒者、機会大量飲酒者、常用多量飲酒者に分類された。常用の定義は週に 3 回以上とし、多量の定義は一回に 5 杯以上の飲酒とした。</p> <p>結果： 飲酒率は 91% と高く、21% は多量飲酒であった。多量飲酒者のうち 40% は常用多量飲酒 であった。多変量ロジスティック回帰では人種、同性愛バーへの出席、抑うつ、衝動的欲求、反社会的行動にある友人の有無や飲酒開始年齢が多量飲酒との関連を認めた。</p> <p>結論： 今回の検討は多量飲酒者の心理社会的特性を示している。このような飲酒要因の多様性は対象者の特性や飲酒にいたる様々な要因や飲酒を予防する要因について検討する必要性を明らかにしている。</p>	